

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | |
|---------|-------------------|-----------|
| 事業所番号 | 0475401014 | |
| 法人名 | 医療法人 仙台医療福祉会 | |
| 事業所名 | やすらぎホーム富沢 | ユニット名 壺番館 |
| 所在地 | 仙台市太白区富沢字寺城28-1 | |
| 自己評価作成日 | 平成 28 年 11 月 23 日 | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

| |
|--|
| <p>入居様が元気に自分らしく生活して頂ける様支援させて頂いております。1日の中に日課はありませんが自分のやりたいことを行って頂いております。入居者の方々が笑いあいが家庭の雰囲気になしでも近づける様に努力しております。又、一方的に提供するだけではなく、職員も入居者の方々に教えて頂くという事を大切にしております。お互いを大切にし、お互いを思いやり、お互いを敬いながら毎日を過ごしています。</p> |
|--|

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaigokensaku.jp/ |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | |
|-------|--------------------------------|--|
| 評価機関名 | NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会 | |
| 所在地 | 宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階 | |
| 訪問調査日 | 平成28 年 12 月 14 日 | |

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

| |
|---|
| <p>法人の基本理念の基「優しく楽しく暖かく」をホームの理念とし、各ユニットで目標を定めている。ホームの夏祭りには、入居者が化粧をし浴衣姿で楽しんだり、保育園児と交流するなど理念の実践に繋げている。子育て中の職員に学校や保育園から帰る時間に合わせた勤務時間や急な休みに対応できる体制を整えたり、毎月勉強会を開催して介護のスキルアップを図る等働く職員に細かい配慮がある。ホーム周辺は区画整理で大きく変わろうとしている。地域との交流を大切に、一人ひとりの喜びを見つけ、笑顔で生き甲斐のある暮らしが出来るよう温かく寄り添う介護に取り組んでいる。</p> |
|---|

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|---|---|--|---|
| 56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない | 63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 やすらぎホーム富沢)「ユニット名 壱番館 」

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | ホームの理念を元に、なぜ地域とのつながりが必要なのかを考え地域との連携を実践している。 | ホームの理念「優しく楽しく暖かく」を基に、各ユニットで1年の目標を定め年度末に話し合っている。食堂の壁に掲げてある。毎日を、笑顔を大切に温かい家族的雰囲気の中で共に暮らす事を実践に繋げている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 地域の行事にはできるだけ参加するようにし、入居者の方々と地域の方々が顔を合わせる機会を作るようにしている。以前に比べるとより良い交流ができていていると感じている。 | 町内の秋まつりは車イスの方も参加し、歌謡ショー等を楽しんでいる。ホームの夏祭りは町内会から TENT を借り、張るのを手伝ってもらっている。地域の避難訓練に参加する等の交流に努めている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 事業所で発行している広報紙にはホームでの生活がどのような様子なのかを記載している。そのほか運営推進会議にて報告相談など行っている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 運営推進会議で地域や他事業所と話し合い入居者の方々が参加できるような行事を紹介してもらったり、他職種から見てのサービス向上のための話し合いを行っている | メンバーの方にホームの中を歩いて頂き、感想や意見をアンケート形式で挙げ、議題として話し合っている。「照明が暗い」は蛍光色を変えた。「雑然としている」は掃除の仕方を再検討する等改善に努めている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 何か困ったことがあった場合は仙台市に連絡しどのように対応すればよいのか相談するようにしている。 | 介護保険制度、生活保護、成年後見人等を相談し、助言を受けている。土地区画整理で地区が変わる予定があるという情報を得た。ホームだよりを市役所と区役所の窓口に置いている等連携を図っている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束委員会を設置している。そして管理者だけが知識を提供するだけではなく、各職員が自分たちで考え「なぜ行っちゃいけないのか」というところで勉強会を行い知識の共有に努めている。 | 外部の研修や毎月の勉強会等に参加し、身体拘束の内容や虐待により受ける弊害を理解し「身体拘束をしないケア」の実践に取り組んでいる。身体拘束委員会は毎月開催し、日常のケアの内容が拘束や虐待に繋がっていないかを検討している。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 虐待防止委員会も設けており、身体拘束と同様にどのような行為が虐待につながるのかを委員がまず勉強しその後職員に周知するようにしている | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 現在成年後見人制度を利用されている入居者の方々もおり、必要に応じて他の方々にも制度の利用をお話させていただいている | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約を交わすときはしっかりご説明させていただき、不明な点などはその場でお聞きするようにしている | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 面会にこられた時に積極的にお声をかけることでご家族様からのご意見やご要望なども聞き取るようにしている。上がったご意見は主任者会議などで検討し反映させていただいている | 来訪時に入居者の近況を伝え、意見、要望等聞き話合っている。より多くの意見が聞けるように雰囲気作りに配慮している。「立ち上がり弱くなった」との相談にできるだけ散歩や廊下を歩くことを実施する等対応した。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 全体会議などの場で職員の意見を聞く機会を設けている。また、職員と管理者の間で気軽に意見を言える関係を作っているためその都度話するようにしている | 職員は年1回、勉強したい事、困った事等をアンケートに記入する。それに対応する勉強会等を開き、技術・知識の向上や働く意欲の向上に繋がるよう取り組んでいる。子育て中の職員に勤務時間を配慮している。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 毎年2回人事考課を行い、職員一人ひとりの評価につなげている | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 法人ないの研修会が有りそれには積極的に参加するようにしている。またホーム内でも勉強会を行なっている | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 研修会をとうして知り合った同業者と情報交換を行いサービスの質の向上に取り組んでいる。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 外部評価 | |
|-----------------------------|-----|--|--|--|
| | | | 自己評価 実践状況 | 実践状況 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 新しく入居された方々が困らないように事前にご家族様などから聴取し対応している。また入居されてからもご本人とお話させていただき不安を取り除き笑顔で暮らしていただけるように努めている | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 申し込みの段階からご家族様やご本人様が困っていることを聴取し、入居される時に安心していただけるように努めている | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | ご家族様、ご本人様にはグループホームの入居という選択肢だけではなく、状況に合わせてサービスの活用も勧めている。 | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 入居者の方々が出来ることを最大限発揮できるように各職員努めている。各職員にも一方的に提供することは良いことではないことを周知し、出来る限り入居者の方々に達成感を感じていただけるよう支援している | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | ご家族様の状況にもよるがご家族様が来所しやすい環境をつくり、入居者の方々ご家族様が笑顔で過ごすことができるように努めている | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 入居者の方々がそれまで気づいてきた関係をご本人様やご家族様から聴取し、関係が途切れないようにご家族様と協力して支援に努めている | 慣れ親しんで来た美容室や三越、藤崎デパートに同行する支援をしている。家族、子供、親戚が来訪し、一緒に墓参り、食事、外泊する等入居者がこれまで関わって来た関係が継続できるよう努めている。 |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 利用者どうし居室を行き来できるように支援している。また、ひとりを好まれるような時もそのままにするのではなく職員が間に入り関係性が保てるように支援している | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 退去されてからも相談にこられるご家族様もおりその都度対応させていただいている。そしてご家族様が納得していただけるように支援させていただいている | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | モニタリングやアセスメントを行う際に日常生活の中での会話の中からご本人様が実際に何を望まれているのか聴取したり、言動や表情から本人の気持ちを汲み取るようにしている | 日々の会話や表情等から思いや意向を把握し、記録に残し共有している。自宅で行っていた事、興味がある事を家族より聞き、声かけすると「やってみようかな」と始める方が多い。編み物、雑巾を縫う等がある。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入居前、入居時、日常生活の会話の中でご家族様や本人に生活歴や、馴染みのあるものなどを伺い新しい発見があった時はスタッフで情報を共有できるようにしている。また出来ることできないことの見極めをおこない、出来ることを全員が把握できるように努めている | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | ご本人様やご家族様にお話を伺ったり、日常生活の中での会話や些細な言動や表情の変化に気づくことができた場合は、その都度本人様の気持ちを汲み取り更新している | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | ユニット会議や人事のカンファレンスで職員同士で話し合い意見交換をしている。また、ご家族様からのアドバイスも含め計画に反映できるようにしている | 「歌が好き」「散歩がしたい」等一人ひとりの楽しみを見つけ、必要な支援を盛り込んだ計画が重要と考えている。ユニットの職員がモニタリングを行い、計画作成者が3ヵ月毎見直しをしている。家族に同意を得ている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | ケース記録には細かい変化でも見逃さず記入し、口頭でもスタッフ全員に申し送りが伝わるまで行い情報が共有出来る様にしている | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 日常生活の中でスタッフが業務にとらわれずその日その人の状態を把握し臨機応変に対応できるようにしている | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 地域のお祭りや学校行事にも参加させていただき地域の方々とのふれあいを大切にしている。トド元の触れ合いで涙を流されたり、感情や心が豊かになっておられる | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 本人の思いを尊重し、自分で伝えられる方は自分の言葉で状態を伝えていただくようにし補足が必要な場合など介入させていただいている。伝えることが難しい方に対しては代弁させていただいているがご家族様ともご相談させていただきご本人にとって一番良い受診の方向を医療につなげるようにしている | 本人と家族が希望するかかりつけ医を受診している。仙台在宅支援診療所の往診を受けている方が8名いる。受診結果は「受診報告書」に記載し、職員に周知している。歯科医は週1回の来訪である。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 介護職員は昼夜共に関わりを持つているため看護師に状態の変化等申し送りを行うように徹底している。体の状態はもちろん、入居者の方々のADLや精神状態の相談など行いより良いケアに繋がるように連携している | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院したことで不安になる方が多いが一日も早く退院し季節できるように関係医療機関ともこまめに連携を取りながら早期退院につなげるようにしている | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | ご家族様や主治医、職員が早期からこまめに連絡を取り合っているそして各職員がチームとして動き入居者の方々やご家族様が望まれるような最後を迎えることができるように努めている | 「重度化に伴う看取りについての指針」を成文化し、入居時に本人と家族に説明している。状況の変化に伴い、その都度話し合いを行い「意思確認書」を交わしている。看取りの経験がある。これからも要望に応じた支援をしていきたいと取り組んでいる。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 入居者の方々に何かあった場合には管理者に連絡が取れるように体制を整えている。救急車や家族、管理者が来るまで何ができるかを話し訓練している | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 2ヶ月に1回日中、夜間想定避難訓練を実施しており入居者様にも参加していただいている。また、消防の肩にも来ていただき直接的な指導をしていただいている。地域の方にもご協力をお願いし参加していただいている | 消防署の公評で「避難した部屋のドアは開けておく」「入居者に訓練であると周知されていた」等があった。火災・水害・地震の各マニュアルが整備されてある。地域の避難場所が分かるようマップの掲示がある。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | ひとりひとりの身体的精神的状況や性格などに合わせ声がけや対応を行なっている。また、不必要な介入はせず必要な時は利用者様やご家族様に理由を話ご了解を経てから行うようにしている | トイレ誘導や失禁時の声がけの言葉やトーンに気を付ける等プライバシーに配慮している。外出時は化粧をする事や夏祭りに口紅を塗る等おしゃれをするその日は、特別な日としている気持ちを大切にしている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 表情や行動などこまめに観察し、少しでも変化があればこちらから声をかけるようにしている。思いや希望をうまく表すことが難しい方に対してはこちらから話題を提供し、更に答えを選択していただくような形で自己決定して頂くようにしている | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 本人の希望があれば良事の時間をすらしたり、お茶の時間に居室でお茶を飲んで頂いたり対応している。外出したい方などはなるべくその日に外出できるよう対応を行っており、ひとりひとりのペースを大切に支援している | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 馴染みの衣類などがあればご家族様に持ってきていただいている。また、更衣の際にも本人様と一緒に服を選びその日着たいものを来ていただいている。また誕生日などには好まれる方に対してはマニキュアやアクセサリなどもプレゼントしている | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている | 普段から皆様の好きな食べ物や食べたいものを聴取しメニューに取り入れるようにしている。簡単な下ごしらえや盛りつけなど手伝っていただいたり、職員も同じテーブルと一緒に食事をしている | 季節の物を取り入れた献立と調理は職員がしている。入居者は米とぎやもやしの根とり等出来る事を手伝っている。「かつぱ寿司」の外食は喜ばれている。法人の管理栄養士の助言、確認を受けている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 良事はバランスよく提供し水分も決められた時間だけではなく状態に合わせて提供し摂取量を確保している。食事あまり召し上がられていない方に対してはお声がけはもちろん、時間をおいてみたり、別なものを提供するなどしている | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 自ら口腔ケアを行うことができる方に対してはお声がけを行ったり見守りのもと行って頂くようにしている。自力では難しい方に対しては介助を行うようにしている | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄チェック表を用いて、各入居者の排泄パターンを掴むようにし、汚染せずに入居者の方々が嫌な思いをしないで済むようにお手伝いさせていただいている。また、状態に合わせて布パンツなども検討するようにしている | 一人ひとりの排泄パターンを把握し、必要な時間に誘導、また自立している方は声かけをしてトイレでの排泄としている。夜間はポータブルトイレ使用の方、パッドだけ交換する方等個別に支援している。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 便秘の原因を理解できるように職員へはが看護師から説明していただいている | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 入浴は入りたい時に入浴していただけるようにお声がけし、気持ちよく入浴していただけるように湯船の温度や脱衣所の室温など設定している。 | 入浴日や時間は特に決めていない。夕食後すぐ寝てしまう方は日中に入浴したり、その日の状態に合わせて声かけをしている。柚子湯等季節の楽しみを取り入れている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 状態や体調に合わせて居室にて休んでいただく。いえで過ごしている時と同じようにそのひとに応じて居室の環境を整え安心して休んでいただけるようにしている | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | ひとりひとり受信報告書や処置板を確認しスタッフ間で申し送りをしっかり行い薬について理解し変化や状態についてスタッフ同士確認する | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 入居者の方々がやりたいことを行えるように、好みを把握し、好みに応じた楽しみごとや気分転換に繋がるようなことを提供している | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | スタッフと一緒に買い物や、映画や外食など希望に沿って外出できるように支援している。また季節によって行事を計画しお花見や七夕に外出したりしている | 花見、七夕祭り、紅葉狩り等、季節を感じる外出は、年間の行事として計画があり実行している。日常的には近隣の公園まで散歩、コンビニへ買い物等をしている。小学校の運動会の日は見物に行く。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | スタッフ付き添いで買い物や外出に行かれた際に一緒にお金を払っていただいたりしている。また、ご自分でお金の管理を行なっているかたはご本人様に支払いをお願いすることもある | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 入居者の方々がのご希望に合わせて電話や手紙のやり取りの支援を行なっている | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 壁には外出時やホームでの生活の様子を写した写真を飾ったり、入居者の方々の手作りの作品などの飾りにしている。窓も大きく多いため自然光も入り、窓を明外の景色を見るなどもしている。 | 食堂は天窓から光が入り明るく、温・湿度は適切である。壁にぬり絵、貼り絵、習字が飾られ、クリスマスツリーは季節を感じる。小上がりの畳の部屋があったり、ソファが置かれたり、好きな場所で思い思いに過ごせるような工夫が見られる。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | テーブル席だけではなく、ソファ席や小上がりなどにも自由に座っていただいている。またテレビの見やすい位置に自由に移動し思い思いのままに過ごせるように支援している | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 居室は入居者様やご家族様が面会に来ていただいた時に過ごしやすい空間を作っていただくようにしている。また、居室に馴染みのものが少ない方に関しては、写真などを飾り生活館を出す工夫をしている | 居室は整理ダンス、本棚等使い慣れた家具が持ち込まれ、家族や思い出の写真が飾られてある。お気に入りの縫いぐるみをベッドに置き、安心して暮らしている自分の部屋である。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | ホームの中には出来るだけものを隠すのではなく使いたい時に使っていただけるようにわかるようにしている。 | | |

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | |
|---------|-------------------|--|
| 事業所番号 | 0475401014 | |
| 法人名 | 医療法人 仙台医療福祉会 | |
| 事業所名 | やすらぎホーム富沢 式番館 | |
| 所在地 | 仙台市太白区富沢字寺城28-1 | |
| 自己評価作成日 | 平成 28 年 11 月 24 日 | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

| |
|--|
| <p>年間の目標を立て、その目標を達成できるように入居者様の個々の状態に合わせた支援を行うことが出来る様に努めている。又、誕生日以外の行事を多く取り入れ、入居者様に季節感を味わって頂き、入居者の方々の交流を図る良い機会になっている。入居者の方々が笑顔で過ごして頂ける様に入居者様の思いを大切にしながらケアに努めている</p> |
|--|

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaigokensaku.jp/ |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | |
|-------|--------------------------------|--|
| 評価機関名 | NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会 | |
| 所在地 | 宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階 | |
| 訪問調査日 | 平成 年 月 日 | |

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

| |
|---|
| <p>法人の基本理念の基「優しく楽しく暖かく」をホームの理念とし、各ユニットで目標を定めている。ホームの夏祭りには、入居者が化粧をし浴衣姿で楽しんだり、保育園児と交流するなど理念の実践に繋げている。子育て中の職員に学校や保育園から帰る時間に合わせた勤務時間や急な休みに対応できる体制を整えたり、毎月勉強会を開催して介護のスキルアップを図る等働く職員に細かい配慮がある。ホーム周辺は区画整理で大きく変わろうとしている。地域との交流を大切に、一人ひとりの喜びを見つけ、笑顔で生き甲斐のある暮らしが出来るよう温かく寄り添う介護に取り組んでいる。</p> |
|---|

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|---|--|--|--|
| 56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 やすらぎホーム富沢)「ユニット名 貳番館 」

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 利用者様の住み慣れた地域での生活を支える為、小規模でなじみのある環境下でのサービスという理念を踏まえ、ホーム、各ユニットで1年ごと目標を話し合い反省し実現できるように努めている | ホームの理念「優しく楽しく暖かく」を基に、各ユニットで1年の目標を定め年度末に話し合っている。食堂の壁に掲げてある。毎日を、笑顔を大切に温かい家族的雰囲気の中で共に暮らす事を実践に繋げている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 町内会に加入し、地域の行事に参加し交流を持つようにしている。又、ホームの行事には地域の皆様に参加して頂ける様声掛け行っている。 | 町内の秋まつりは車イスの方も参加し、歌謡ショー等を楽しんでいる。ホームの夏祭りは町内会からテントを借り、張るのを手伝ってもらっている。地域の避難訓練に参加する等の交流に努めている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | スタッフが広報紙を作成しており、グループホームはどのようなところなのか記載し回覧している。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 事業報告を行うとともにホームでの改善点を伺い、その後の運営に活かしている | メンバーの方にホームの中を歩いて頂き、感想や意見をアンケート形式で挙げ、議題として話し合っている。「照明が暗い」は蛍光色を変えた。「雑然としている」は掃除の仕方を再検討する等改善に努めている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 疑問点はその都度問い合わせさせていただき、対応方法などの助言していただいている。 | 介護保険制度、生活保護、成年後見人等を相談し、助言を受けている。土地区画整理で地区が変わる予定があるという情報を得た。ホームだよりを市役所と区役所の窓口に置いている等連携を図っている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束について研修会に参加し、参加した職員より伝達講習を行っている。日々のケアを見直し自分たちのケアが身体拘束に結びついていないか検証している | 外部の研修や毎月の勉強会等に参加し、身体拘束の内容や虐待により受ける弊害を理解し「身体拘束をしないケア」の実践に取り組んでいる。身体拘束委員会は毎月開催し、日常のケアの内容が拘束や虐待に繋がっていないかを検討している。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 身体拘束と同様に虐待に関しても自分のケアが虐待にあたっていないか日々のケアを見直している | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 管理者は研修や勉強会などを通して制度の理解に努め、必要時に活用できるようにしている | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約時には十分に説明を行い、疑問の点などはいつでもお伺いし納得して頂けるよう随時説明させていただきようとしている | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 面会時やお電話した際にお困りの事や、要望等が無い確認し、出されたご意見などは会議の場で議題として上げている | 来訪時に入居者の近況を伝え、意見、要望等聞き話し合っている。より多くの意見が聞けるように雰囲気作りに配慮している。「立ち上がりが弱くなった」との相談にできるだけ散歩や廊下を歩くことを実施する等対応した。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 各委員会での意見や、職員の意見、要望はその都度聞くようにし、改善できるものに対してはその都度改善している | 職員は年1回、勉強したい事、困った事等をアンケートに記入する。それに対応する勉強会等を開き、技術・知識の向上や働く意欲の向上に繋がるよう取り組んでいる。子育て中の職員に勤務時間を配慮している。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 管理者が、職員個々の状態を面談や日々の会話等から積極的に把握し、その後の職場環境や条件の向上につながるよう法人本部と相談している | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 研修には積極的に参加してもらうようになっている。参加ができないスタッフについては、伝達講習をなどを通して内容を周知していただくようになっている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 同法人内で行われる勉強会等を通して職員と交流を持つようになっている。又、地域包括支援センターなどが主催する勉強会に参加させていただきほかの事業所等と積極的に交流を持つようになっている | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-----------------------------|-----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 聞き取りはもちろん必要だが、コミュニケーションを通し、利用者の方が言葉にならないようなことでも感じ取れるようにしている | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 入居される前はもちろん、入居してからもご家族様が不安なことや、要望等常に話しやすい関係作りに努め、家族様からお話いただけないような時はこちらから話しかけご家族様の声に耳を傾けるようにしている | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 以前の生活習慣をお聞きしながら、その時必要と思われる支援を提供している。できるだけ混乱に繋がらないよう努めている | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 出来ることや、してみたいことなどを聞き取ったり、振ってみることで反応を確かめ、表情よく行っていたことに関しては継続して行っていたくようにしている | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 入居前はもちろん、入居後もご本人様の得意なことなどを聞き取りながら日々のケアに反映できていることをご家族様とともに喜べるように報告するようになっている | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | ご本人が受診や美容室等にできるだけ継続して行っていただけるように支援していく。 | 慣れ親しんで来た美容室や三越、藤崎デパートに同行する支援をしている。家族、子供、親戚が来訪し、一緒に墓参り、食事、外泊する等入居者がこれまで関わって来た関係が継続できるよう努めている。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 出来るだけ孤立しないように気をつけ、お声がけし輪に入っていただく。また、一人を好まれる方でもずっとひとりではなくメリハリをつけて一人でおられる時とそうでない時を分けてたいおうしていく | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 退去されたあとも、相談に乗りながら必要に応じて必要なサービスを提供している | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | ひとりひとりの思いは状況により変化しているため、その都度アセスメントを通して聴取し、できない場合は日頃の様子から本人様の意向を感じ取っていただくようにしている | 日々の会話や表情等から思いや意向を把握し、記録に残し共有している。自宅でやっていた事、興味がある事を家族より聞き、声かけすると「やってみようかな」と始める方が多い。編み物、雑巾を縫う等がある。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | できるだけ、それまでの暮らしを継続して頂けるよう入居前に聴取し実現できるよう、ご家族様にもご協力頂きながら把握している | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | ケース記録を細かく残すようにしながら、一人ひとり変化等にすぐ気付けるように必ず目を通すようにしている。又、ユニット介護など気になった方の状態を話し情報の共有に努める | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 入居者の方々が、どのように生活してどのように暮らしたいか本人様を始め、ご家族様職員が皆で話しあいその時の状況にあった介護計画を作成するようにしている | 「歌が好き」「散歩がしたい」等一人ひとりの楽しみを見つけ、必要な支援を盛り込んだ計画が重要と考えている。ユニットの職員がモニタリングを行い、計画作成者が3ヵ月毎見直しをしている。家族に同意を得ている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 日々のケアについて気づきや工夫していることをケース記録に記入し、誰が見てもわかるようにしている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 一人ひとりが必要な介護、必要な支援を受けることができるように事業所の枠にとらわれないことと必要に応じてサービスを提供している | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 買い物や外食の機会を作り近隣の施設を利用している。又、運営推進会議などで情報をいただき地域の行事にも参加させていただいている | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 入居前に本人様やご家族様の行きたい病院をあらかじめ聴取しできるだけご家族様のご希望に沿うことが出来る様支援している | 本人と家族が希望するかかりつけ医を受診している。仙台在宅支援診療所の往診を受けている方が8名いる。受診結果は「受診報告書」に記載し、職員に周知している。歯科医は週1回の来訪である。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 日々の体調管理はもちろん、日常生活の中で様子がおかしいときや、疑問に思ったことなどを職場内の看護師に伝え支持をもらうようにしている | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 退院後の対応に活かせるように、入院先の医師や看護師、相談員との情報交換を行っている。又、必要に応じて相談に乗っていただけよう関係づくりに努めている | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 入居の段階から、終末期のあり方についてお話し、状況や考え方が変わればその都度変更可能であることもお話しする。又、そのときを迎えるにあたり医師や看護師、介護員等必要に応じて勉強会を行いその方のケアに当たるようにしている | 「重度化に伴う看取りについての指針」を成文化し、入居時に本人と家族に説明している。状況の変化に伴い、その都度話し合いを行い「意思確認書」を交わしている。看取りの経験がある。これからも要望に応じた支援をしていきたいと取り組んでいる。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 各種マニュアルを作成し必要に応じて、訓練を行い身につくようにしている。又、ひとりひとりに対し起こりうることを書き出しカルテの表紙にしている | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 地震や火災の対応マニュアルを作成し、訓練を行っている。地域の方にも協力いただき、訓練に参加していただいている | 消防署の公評で「避難した部屋のドアは開けておく」「入居者に訓練であると周知されていた」等があった。火災・水害・地震の各マニュアルが整備されてある。地域の避難場所が分かるようマップの掲示がある。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 一人ひとりの生活スタイルや性格を理解し対応している。一人ひとりにあった対応や声かけを心掛けるようにし、尊重している | トイレ誘導や失禁時の声かけの言葉やトーンに気を付ける等プライバシーに配慮している。外出時は化粧をする事や夏祭りに口紅を塗る等おしゃれをするその日は、特別な日としている気持ちを大切にしている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 他者との会話中に耳を傾けたり、本人との会話中にさりげなく本人の思いなどに耳を傾けるようにしている。又、その希望に添えるようにしている | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 一日の中でなるべくご自分の好きなことを行っていただけよう支援している。自分で意見や要望を言えない方はこちらから確認したりしながら出来ることを行っていただけよう支援している | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | その方の好みを各職員知っておりできるだけその好みにあったおしゃれが出来る様支援している。ご自分で衣類を選ぶことが可能な方は季節感は大事のためその都度助言している | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている | 最初から最後までは難しいが、一人ひとりのできることを行っていただけよう支援している。行い終わったら少し大げさなくらいお礼を言うことで次につながるようにしている | 季節の物を取り入れた献立と調理は職員がしている。入居者は米とぎやもやしの根とり等出来る事を手伝っている。「かつぱ寿司」の外食は喜ばれている。法人の管理栄養士の助言、確認を受けている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事と水分はチェック表に記入し、いつもの状況が違うような時はできるだけ記録に残すようにしている。食事や水分が進まない時は声かけの方法や、対応を工夫している | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 朝、夕の口腔ケアは必ず行うように必要な方は声かけを行っている。又、食後残渣物が多い方は毎食後口腔ケアを行っていただくよう声かけ必要に応じて介助している | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 一人ひとりの能力をアセスメントしできる方には自力にて行っていただけるよう声がけし、難しい方には排泄チェック表からみて必要な時間に誘導するようにしている | 一人ひとりの排泄パターンを把握し、必要な時間に誘導、また自立している方は声がけをしてトイレでの排泄としている。夜間はポータブルトイレ使用の方、パッドだけ交換する方等個別に支援している。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 冷たい牛乳やヨーグルト、朝一番のお水などその方に合わせて提供しできるだけ自然排便が出来る様お世話している | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | その日の体調を確認し、なるべく希望にそのようなタイミングで入浴していただいている。入浴時間は一応13:00から21:00となっているが、それ以外の時間でも希望時対応するようにしている | 入浴日や時間は特に決めていない。夕食後すぐ寝てしまう方は日中に入浴したり、その日の状態に合わせて声がけをしている。柚子湯等季節の楽しみを取り入れている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 安心して休んでいただけるよう環境をととのえている。昼間休まれるときは時間をみて休みっぱなしにはならないよう心がけている | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 内服前に薬のチェックをその日勤務のスタッフで行いミスが無いよう確認合っている。内服されても状態に合わせて、必要な方には飲み込んだのまで確認している | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 日常の生活の中で、日々の状態を観察しそれぞれやりたいことや得意なことを行うことが出来る様支援している。そのために、入居後もご家族様に入居者の方々がとづけてきたことなど聞き取るようにしている | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 本人がやりたいことや、行きたいことはできるだけ希望に沿えるよう支援している。買い物や散歩などに出かけることで地域の方々と顔なじみにもなり良い関係も築けている | 花見、七夕祭り、紅葉狩り等、季節を感じる外出は、年間の行事として計画があり実行している。日常的には近隣の公園まで散歩、コンビニへ買い物等をしている。小学校の運動会の日は見物に行く。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 自分でお金を管理されている方に関しては、お小遣い程度の金額を管理されている。それ以外の方々に関してはお金はこちらで保管し買い物の際にお支払いしていただいている | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | ご自分から電話をかけることを希望されるときは、能力に応じて電話の支援を行っている。手紙を自ら送ると話される方はいないが、ご家族様からものを送られお礼をしたらとお話するとお礼を書かれたりしている | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 季節感が出るように装飾を行っている。居間や食堂などの共有空間は、入居者様が心地よいと思えすような空間を作っている | 食堂は天窓から光が入り明るく、温・湿度は適切である。壁にぬり絵、貼り絵、習字が飾られ、クリスマスツリーは季節を感じる。小上がりの畳の部屋があったり、ソファが置かれたり、好きな場所で思い思いに過ごせるような工夫が見られる。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 一人ひとりが思い思いの場所で過ごして頂けるように、椅子やソファ、テーブルの位置を設定している | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 思い出の写真を飾ったり、使い慣れた家具を持ち込んでいただいたりしている。又、入居者の方々のADL状況にも合わせて使いやすいようベッドの位置を調整している | 居室は整理ダンス、本棚等使い慣れた家具が持ち込まれ、家族や思い出の写真が飾られてある。お気に入りの縫いぐるみをベッドに置き、安心して暮らしている自分の部屋である。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 入居者の方々のADL状況に合わせて、環境を整えている。又、一人ひとりが自分で使えるよう引き出しに張り出すようにしている | | |

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|-------------------|-------|-----|
| 事業所番号 | 0475401014 | | |
| 法人名 | 医療法人 仙台医療福祉会 | | |
| 事業所名 | やすらぎホーム富沢 | ユニット名 | 参番館 |
| 所在地 | 仙台市太白区富沢字寺城28-1 | | |
| 自己評価作成日 | 平成 28 年 11 月 29 日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

| |
|---|
| <p>花見、紅葉など季節を感じていただけるような企画を立案させていただいております。お誕生日のお祝いや、一人一人が好まれるようなものを食べに外出をする機会を作っております。特別な日以外でも外出したり散歩やドライブの機会を作るようにしております。また、ユニットのくりに縛られず、夏祭りや、敬老会、クリスマスなどの合同の行事を行っております。</p> |
|---|

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaijokensaku.jp/ |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|--------------------------------|--|--|
| 評価機関名 | NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会 | | |
| 所在地 | 宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階 | | |
| 訪問調査日 | 平成 年 月 日 | | |

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

| |
|---|
| <p>法人の基本理念の基「優しく楽しく暖かく」をホームの理念とし、各ユニットで目標を定めている。ホームの夏祭りには、入居者が化粧をし浴衣姿で楽しんだり、保育園児と交流するなど理念の実践に繋げている。子育て中の職員に学校や保育園から帰る時間に合わせた勤務時間や急な休みに対応できる体制を整えたり、毎月勉強会を開催して介護のスキルアップを図る等働く職員に細かい配慮がある。ホーム周辺は区画整理で大きく変わろうとしている。地域との交流を大切に、一人ひとりの喜びを見つけ、笑顔で生き甲斐のある暮らしが出来るよう温かく寄り添う介護に取り組んでいる。</p> |
|---|

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|--|---|---|---|
| 56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない | 63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | <input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | <input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | <input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 やすらぎホーム富沢)「ユニット名 参番館 」

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | ホーム独自の理念があり、各ユニットでも毎年理念をもとにどのようにすれば理念を実行することができるかを職員全員で考え目標を立てている | ホームの理念「優しく楽しく暖かく」を基に、各ユニットで1年の目標を定め年度末に話し合っている。食堂の壁に掲げてある。毎日を、笑顔を大切に温かい家族的雰囲気の中で共に暮らす事を実践に繋げている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 保育園の行事に参加させて頂いたりホームの夏祭りを毎年開催し地域の方々にも参加して頂ける様案内している。地域の方々にも定着してきている | 町内の秋まつりは車イスの方も参加し、歌謡ショー等を楽しんでいる。ホームの夏祭りは町内会からテントを借り、張るのを手伝ってもらっている。地域の避難訓練に参加する等の交流に努めている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | ホームで作成している広報誌を回覧に回しホームでどのような生活を送っているか知って頂く様にしている | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 会議で出た意見などホーム自体の全体会議やユニット会議で話し合いサービスの向上に活かしている | メンバーの方にホームの中を歩いて頂き、感想や意見をアンケート形式で挙げ、議題として話し合っている。「照明が暗い」は蛍光色を変えた。「雑然としている」は掃除の仕方を再検討する等改善に努めている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 分からない点などがあるときは市に連絡しご指導していただいたりしている | 介護保険制度、生活保護、成年後見人等を相談し、助言を受けている。土地区画整理で地区が変わる予定があるという情報を得た。ホームだよりを市役所と区役所の窓口に置いている等連携を図っている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | いかなる場合でも身体拘束を行ってはいけない。そのことを念頭に置いたうえで、毎月身体拘束委員会を開き、日々のケアが身体拘束に当たらないか見直しを行っている。又、勉強会や、資料作りを行い配布している | 外部の研修や毎月の勉強会等に参加し、身体拘束の内容や虐待により受ける弊害を理解し「身体拘束をしないケア」の実践に取り組んでいる。身体拘束委員会は毎月開催し、日常のケアの内容が拘束や虐待に繋がっていないかを検討している。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 身体拘束同様虐待も行っていけない。毎月虐待防止委員会を行い、日々のケアが虐待に当たらないか見直すようにしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 管理者は、研修会や勉強会を通して制度の理解に努め、必要に応じて活用できるようにしている。しかし職員は知識不十分のため今後勉強会などを行っていききたい | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約時十分に説明を行っているが、不安や疑問な点がある場合は納得して頂けるまで説明を行うようにしている | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 面会時やケアプランの説明時にスタッフから声をかけさせていただき意見をいただけるようにしている。いただいたご意見は会議などで話し合い今後のケアや運営に活かせるようにしている | 来訪時に入居者の近況を伝え、意見、要望等聞き話合っている。より多くの意見が聞けるように雰囲気作りに配慮している。「立ち上がりが弱くなった」との相談にできるだけ散歩や廊下を歩くことを実施する等対応した。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | ユニット会議や全体会議などで職員が意見をいうことのできる場を設け反映できるようにしている | 職員は年1回、勉強したい事、困った事等をアンケートに記入する。それに対応する勉強会等を開き、技術・知識の向上や働く意欲の向上に繋がるよう取り組んでいる。子育て中の職員に勤務時間を配慮している。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 面談を行いひとりひとりの目標を立てその達成度を見極めつつ評価できるようにしている | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | わからないことや知りたいことをアンケートし、勉強会を開くことで知識や技術の向上を促している。また、各自委員会に所属し自ら勉強しそれを周知できるように進めている | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 研修などを通じて同業者と情報交換している | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-----------------------------|-----|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入居時入居者の方々が不安に思っていること、困っていることをご家族様からも聴取し出来るだけ不安を感じつつ安心して過ごして頂けるように支援を行いコミュニケーションを図るように努めている | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | ご家族様が不安に思っていることや困っていることに対し傾聴を行いながら不安を取り除きご家族様が安心していただけるように努めている | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 入居の相談があった時点で現状を把握しグループホームの他にもサービスを紹介させていただきその時の状況に合わせたサービスも視野に入れつつ支援させていただいている | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | ご本人様が何を望まれているのかを理解し、提供されるだけの一方的な関係にはせずお互いに助け合いながら生活しているということを実感していただけるよう支援している | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 入居者様が生活するうえでご家族様からの話を聞くことや連絡を密にとり状況をその都度報告することでご家族様と職員と一緒にご本人様を支える関係を作っている | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 面会時間などは設定しておらずいつでも来ていただけるように支援している。ご本人様の馴染みの環境を大切にしてお保てるように慣れ親しんだ場所への散歩や美容室に出かけるなど支援している | 慣れ親しんで来た美容室や三越、藤崎デパートに同行する支援をしている。家族、子供、親戚が来訪し、一緒に墓参り、食事、外泊する等入居者がこれまで関わって来た関係が継続できるよう努めている。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 入居者様の性格や個性を把握、考慮し、スタッフが間に入り関係を保つことやホーム全体を通してコミュニケーションを図るように努めている | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | サービス利用が終了した場合でも、ご家族様からの相談等があればご説明をし納得して頂ける様支援させて頂いている | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | ひとりひとりの希望や意向を聴取する他にも日常生活での会話や反応などからニーズを探りケアプランに行かせるようにしている。ご家族様にも面会時などにお話しを聞くようにしている | 日々の会話や表情等から思いや意向を把握し、記録に残し共有している。自宅でやっていた事、興味がある事を家族より聞き、声かけすると「やってみようかな」と始める方が多い。編み物、雑巾を縫う等がある。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | その方の週刊や趣味を聴取し、ほ一むにおいても可能な限り続けていただけるように支援している。馴染みの場所などがあれば外出などにお誘いし地域とのつながりも保てるようにしている | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | ケース記録に言動を細かく記載し申し送りの際にも伝えられる様にしている。ユニット会議においても個人検討を行い情報の共有を行なっている | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | ご本人様やご家族様からご意見を聴取するとともに、日常の関わりからもニーズを探りケアプランに反映できるようにしている | 「歌が好き」「散歩がしたい」等一人ひとりの楽しみを見つけ、必要な支援を盛り込んだ計画が重要と考えている。ユニットの職員がモニタリングを行い、計画作成者が3ヵ月毎見直しをしている。家族に同意を得ている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 実践した結果をケース記録に記入するようにしている。また申し送りでも伝えるようにしている | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 入居前から利用されており、入居後も利用していきたいという方に対してはホームの枠にとらわれず出来るだけ対応するようにしている | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 近所にあるレストランやスーパーを積極的に利用し外食や買い物を楽しむことができる場面をできるだけ作るようにしている | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | ご本人様やご家族様と相談しつつご希望されている医療機関を利用していただけようになっている。また、状態の変化に合わせて往診などに対応して頂けるような医療機関を紹介したりしている | 本人と家族が希望するかかりつけ医を受診している。仙台在宅支援診療所の往診を受けている方が8名いる。受診結果は「受診報告書」に記載し、職員に周知している。歯科医は週1回の来訪である。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 些細なことでも気づいた点は看護師に報告する様にしている。状態に合わせて受診につなげたり、医療機関に問い合わせるなど対応できるようにしている | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院されてからもご家族様や医療機関とこまめに連絡を取り、状況の把握に努め、早期退院につなげることができるようにしている | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 入居時に重度化に伴うターミナルケアについてご説明させていただいているが、状況の変化に合わせてその都度ご説明させていただいている。最終的に、ご家族様やご本人様が望まれている方向性になるよう支援させていただいている | 「重度化に伴う看取りについての指針」を成文化し、入居時に本人と家族に説明している。状況の変化に伴い、その都度話し合いを行い「意思確認書」を交わしている。看取りの経験がある。これからも要望に応じた支援をしていきたいと取り組んでいる。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 緊急時のフローチャートや連絡網を用いて対応できるようにしている。応急処置に関しても看護師に指導していただきながら対応している | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 年に1回地域の方を含めた避難訓練を行っている。それ以外にも2ヶ月に1回は火災を想定したk避難訓練を行っている。 | 消防署の公評で「避難した部屋のドアは開けておく」「入居者に訓練であると周知されていた」等があった。火災・水害・地震の各マニュアルが整備されてある。地域の避難場所が分かるようマップの掲示がある。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 入居者様の人格を尊重する基本的な態度を忘れず、その日の状態気持ちに合わせた声かけ対応を心がけている | トイレ誘導や失禁時の声かけの言葉やトーンに気を付ける等プライバシーに配慮している。外出時は化粧をする事や夏祭りに口紅を塗る等おしゃれをするその日は、特別な日としている気持ちを大切にしている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 入居者の方々の意思を表出していただけるよう質問の方法を工夫したり、話題を振りつつご本人様の表情の変化を確認しながら事後決定につなげている | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 入居者の方々が思い思いのままに生活していただけるように職員はサポートさせていただけただけ希望に添えるよに支援している | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 髪を切るなどもできるだけご本人様のご希望に添えるよう支援している。また、着ていただく服などもできるだけ望まれるようなものを着ていただいている | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 入居者の方々の栄養、食べやすさ、好みを考え食事の準備を行なっている。盛りつけや後片付け、下ごしらえなど職員とともに行っていたき一緒に生活を送っているという生活感を共有できるようにしている | 季節の物を取り入れた献立と調理は職員がしている。入居者は米とぎやもやしの根とり等出来る事を手伝っている。「かつぱ寿司」の外食は喜ばれている。法人の管理栄養士の助言、確認を受けている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事摂取量、水分摂取量はひとりひとりチェック表を作成し確認している。その際摂取量が少ない場合などは代替になるものを検討しながら提供し摂取量を提供している | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | ひとりひとりの状態に合わせて口腔ケアの声かけや介助を毎食後行なっている | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄チェック表をつけ排泄パターンを把握することで事前に声がけし、失敗を少なくすることができるよう対応している | 一人ひとりの排泄パターンを把握し、必要な時間に誘導、また自立している方は声がけをしてトイレでの排泄としている。夜間はポータブルトイレ使用の方、パッドだけ交換する方等個別に支援している。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 排泄チェック表を作成し排便が滞ることのないように乳製品や水分の提供、散歩の声がけ等を行なっている。薬以外での改善を心がけている | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 入浴日を決めず、就寝前に入りたい方や、夕食後はすぐに休みたい方には日中にお声がけさせていただいたり職員の都合で決めるのではなくご本人様のご希望に添えるように支援している | 入浴日や時間は特に決めていない。夕食後すぐ寝てしまう方は日中に入浴したり、その日の状態に合わせて声がけをしている。柚子湯等季節の楽しみを取り入れている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 安眠を妨害することのないように巡視を行い、室温、光量などに注意し好みに合わせて休むことができるように支援している | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 受信表酷暑に処方内容を記入しお薬の説明書もケース記録にファイリングいつでも目を通せるようにしている | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 本人様の聴取や家族様の話などから趣味や嗜好を探り現在出来ないことでも介入することでできることがあれば提供するようになっている | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 散歩やドライブなど外でと出いただく機会を設けている。また、本人様のなじみの場所を聴取してその場所に出かけることができるよう支援している | 花見、七夕祭り、紅葉狩り等、季節を感じる外出は、年間の行事として計画があり実行している。日常的には近隣の公園まで散歩、コンビニへ買い物等をしている。小学校の運動会の日は見物に行く。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 金銭に関しては、お金をもっていないと心配される方もおられるためお財布を持っていただくことで安心していただける様に支援している。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | ご希望時電話や手紙を送るなど支援させていただいている。耳が遠い方に関してはご本人に変わり職員が要件を伝えさせていただいたりしている | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 玄関やろうかに観葉植物を置いたり、写真を貼ったりしている。また、ホールでは天窓より光を取り入れ柔らかい空間を作り出している。入居者の方々の状態に合わせ室温、湿度管理をしております心地よい空間を作りにしている | 食堂は天窓から光が入り明るく、温・湿度は適切である。壁にぬり絵、貼り絵、習字が飾られ、クリスマスツリーは季節を感じる。小上がりの畳の部屋があったり、ソファが置かれたり、好きな場所で思い思いに過ごせるような工夫が見られる。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 畳席を好まれる方、ソファを好まれる方などその方が好きな場所で過ごしていただけるよう空間を作っている | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 居室はご家族様にもご協力を得ながら馴染みのものが多いようにしている。なじみのものが少ない方に関しても写真を飾るってみたりご本人様がお気に入りのぬいぐるみなどを配置し居心地の良い空間を提供できるよう工夫している | 居室は整理ダンス、本棚等使い慣れた家具が持ち込まれ、家族や思い出の写真が飾られてある。お気に入りの縫いぐるみをベッドに置き、安心して暮らしている自分の部屋である。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 各々の場所には何がどこにあるのかわかるように表示し、行きたいとき、使いたいときすぐに行動に移せるように工夫している | | |